

自分らし

# これからの住まいと暮らし

～幸せなセカンドライフのために～

vol.23  
高齢期の  
住まいの  
見学

ご自身、または親が高齢になると、安心して暮らせる「高齢者向けの住まい」への住み替えが視野に入ってきました。老後の住まい選びで大切なポイントは何か。高齢者の住まいに詳しい、三井不動産(株)ケアデザイン室介護コンサルタントの渡邊幸子さんにお聞きしました。

希望と不安、  
健康状態を把握する

住み替えは、自宅の整理も含めて時間も労力もかかるので、できるだけ早い時期から検討を始めることが大切です。住まい選びで大切なのは、住まいに求める「希望」と解消したい「不安」を明確にすること、「自分の健康状態を把握」することです。希望や不安、健康状態が分かってくれば、多様な住まいの中から自分に合った施設の情報を見つけることができます。そして、施設がいくつかに絞られた段階で、必ず行ってほしいのが「見学」です。

現在、新型コロナウイルスの影響でどの施設も感染対策を行っており、オンライン見学に対応している施設もあります。動画は参考になりますが、もし気に入った施設があれば、できれば決める前に実際に足を運び、見学していただくことをお勧めします。※

五感を使いながら  
施設の見学を

見学前に、施設の「重要事項説明書」を取り寄せて詳細を確認していただきます。「重要事項説明書」とは、運営会社の概要、サービス内容、利用料金などが幅広く記載されている説明書です。説明書では分からなかったところを確認するつもりで行くと、見学が効率的で有意義な時間になります。また、見学前は、必ず施設に連

絡を取って見学の際の注意事項を確認し、予約を取ってください。

見学時は、パンフレットでは分からない、音や匂い、色などを五感でチェックするようにしましょう。現在は、感染対策のため、食事の試食を中止している施設がありますが、食事が自分の口に合うかどうかは大切です。可能であれば試食して、メニューや味付け、量、什器などを確認してください。

見学では客観的な視点も必要なので、コロナ禍であっても複数(2名程度)で行くことをお勧めします。また、しばらくはコロナの影響が続くことが予想されるので、面会や外出の制限など、施設の感染対策についても確認しておきましょう。どうしても見学が難しい場合は、施設長などに詳しく話を聞いてください。大変な時期は続いています。将来的に住み替えが視野に入っているなら、立ち止まらずに、最初の一步を踏み出したいですね。

## コロナ禍でも、できる限り、住まいの見学を。

### 施設の見学のポイント

#### ✓立地

- 最寄りの駅までの距離、交通手段
- 周辺の環境(坂道、階段、騒音の有無など)
- 至便性(医療機関、銀行、商業施設の有無など)

#### ✓設備(雰囲気)

- インテリア、匂いや雰囲気、居室の設備(緊急ボタンなど)
- 共有部の設備(浴室、レストラン、アクティビティルームなど)、利用のルール
- バリアフリーのレベル(廊下幅、手すりなど)、災害への対応(備蓄、耐震など)

#### ✓入居者の様子、スタッフの様子

- 入居者の表情(楽しそう、賑やかなど)、身体状況(杖、車椅子など)
- スタッフの立ち振る舞い(挨拶や声かけの様子、表情など)

#### ✓食事

- メニュー、味付け、量、治療食(減塩、カロリー控え目)の対応など
- 予約の有無、食事の時間帯、什器の好みなど
- 体調不良時の対応(配下膳など)の有無

#### ✓医療・介護

- 介護スタッフ、看護師の配置(保有資格、時間帯など)
- 介護、医療が必要になったときの対応、居室移動の有無※
- 協力医療機関の有無、診療科(内科、整形外科など)

三井不動産ケアデザイン室作成

※介護が必要になった場合、介護居室への住み替えを求めるホームもあります。住み替えのルールを確認して、介護フロアや介護居室も必ず見学しましょう。

※新型コロナウイルスの影響で見学や体験入居を中止・制限している施設もあるため、事前に対応を問い合わせてください。